

2022(令和4)年8月5日

鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、バリアフリー設備の整備を加速します ホームドア整備や案内設備の充実を推進

京阪電気鉄道株式会社(本社：大阪府中央区、社長：平川良浩)では、国および地方自治体のご協力のもと、エレベーターやバリアフリースイートイレ(多機能トイレ)等各種バリアフリー設備の整備に努めてまいりました。

今後もお客さまがより安全にご利用いただけるよう、ホームドア整備を加速するとともに、案内設備の充実ならびに各種バリアフリー設備の更新を行い、環境整備を進めてまいります。

その整備のため、お客さまから薄く広いご負担をお願いする「鉄道駅バリアフリー料金制度」(2021年12月に国により創設)を活用いたします。

また、バリアフリー設備の整備以外にも、従来から取り組んでまいりました社員のサービス介助士資格取得や「声かけ・サポート」運動の推進など、すべてのお客さまが安心してご利用いただける施設・環境づくりに取り組んでまいります。

詳しくは、以下のとおりです。

1. 今後のバリアフリー設備の整備、更新に関する取り組み(2025年度末まで)

ホームドアについては、計4駅8番線の整備を計画しており、2023年度は枚方市駅への設置を予定しております。また、テレビ電話機能付きインターホンを京阪線全駅に設置し、お客さまと駅係員がお互いの表情や様子を確認しながら対話が行えるようにするとともに、耳の不自由なお客さまと筆談でコミュニケーションを取ることができるようにいたします。さらに、駅放送システム更新による放送内容の充実や行先表示器の新設などにより、運行情報の提供強化も進めてまいりますほか、エレベーター3駅6基の更新をはじめ、既存バリアフリー設備についてもお客さまに安心してご利用いただけるよう、必要な更新、維持管理を行ってまいります。

なお、世界的な半導体不足などにより、整備計画が変更となる場合がございます。

2. 鉄道駅バリアフリー料金制度の活用

バリアフリー設備の整備にあたっては、国により2021年12月に創設された「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用します。本日、国土交通省近畿運輸局に、「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用した料金設定および整備等計画の届出を行いました。

運賃に加算して収受した鉄道駅バリアフリー料金は、バリアフリー設備の整備費等に充当いたします。

○届出の概要

京阪線全駅(※大津線および鋼索線を除く)を対象に、以下に記載の鉄道駅バリアフリー料金を、現在の大人旅客運賃に加算します。通学定期旅客運賃には加算しません。また、小児は鉄道駅バリアフリー料金加算後の大人の半額となります。

鉄道駅バリアフリー料金設定額(大人)

定期外	定期			
	通勤※			通学
	1 カ月	3 カ月	6 カ月	料金なし
10 円	370 円	1,050 円 または 1,060 円	1,990 円 または 2,000 円	

※現在の定期運賃の平均割引率により設定いたします。

鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、後日改めてお知らせします。

なお、京阪線各駅のバリアフリー設備の状況等については京阪電車ホームページ

(<https://www.keihan.co.jp/traffic/safety/barrierfree.html>)でお知らせしてまいります。

3. 収受開始予定日

2023年4月1日(土) (予定)

(参考) バリアフリー設備の整備に関するこれまでの取り組み

2022年8月5日時点の京阪線の主なバリアフリー設備の整備状況は、以下のとおりです。

(1) ハード面の設備整備(京阪線)

- ① 段差解消(エレベーター・スロープ)
60 駅／60 駅
- ② バリアフリースイートイレ(多機能トイレ)
58 駅／60 駅
- ③ ホームドア
1 駅 2 番線(京橋駅 1、2 番線(京都方面行)ホーム)
- ④ 車両の車いすスペース
482 両／642 両
- ⑤ 列車接近放送、列車接近表示
60 駅／60 駅
- ⑥ 行先表示器
31 駅／60 駅
- ⑦ 内方線付き点状ブロック
60 駅／60 駅



エレベーター



バリアフリー(多機能)トイレ



ホームドア

(2) ソフト面の取り組み

- ① 社員のサービス介助士資格の取得(2021年度末時点で331名の社員が取得)
- ② 総合研修センターを活用した技術部門および管理部門も含めた社員を対象としたバリアフリー研修の実施
- ③ 「声かけ・サポート」運動の推進(2021年度は83社局7団体と連携して実施)
- ④ 筆談アプリ搭載案内用タブレットの配備

以 上

バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	京阪電気鉄道株式会社
---------	------------

整備方針	
全期間 (2021～2025年度)	京阪線全駅（60駅）において、ホームドアの設置ならびにエレベーターをはじめとするバリアフリー設備の設置・改良および更新を実施する。

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※1	-
年間徴収額 (百万円)	1,060		440	
料金徴収 対象駅	京阪線全駅（60駅）※詳細は別紙による			
備考	※1：1カ月：370円、3カ月：1,050円または1,060円、6カ月：1,990円または2,000円 ※2：回数券、団体券、貸切券、企画乗車券を含む 鉄道駅バリアフリー料金を加算した運賃に関する詳細は、別途周知する。			

年間徴収額	1,500 百万円
徴収期間	3 年間（2023.4.1～2026.3.31）※2026年度以降の継続について検討予定
総徴収額	4,500 百万円
総整備費	5,995 百万円（2021.4.1～2026.3.31）※2026年度以降の継続について検討予定

バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	4 駅 8 番線	2,927 百万円
車両のフリースペース	6 編成 44 両	74 百万円
その他 ※1	4 駅	97 百万円
その他 ※2	60 駅	200 百万円
備考	※1_列車接近表示・行先表示器 ※2_テレビ電話機能付きインターホン	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	3 駅 6 基	150 百万円
その他 ※3	4 駅	138 百万円
その他 ※4	60 駅	408 百万円
その他 ※5	60 駅	133 百万円
備考	※3_列車接近表示・行先表示器 ※4_駅放送システム ※5_運行情報配信システム（旅客案内ディスプレイ）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
京阪線	2 編成 12 両	951 百万円
ホームドア整備等 との一体性について	車両形式により、扉の枚数や位置が異なることから、ホームドア整備に当たっては車両の更新が併せて必要であるため。	
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	517 百万円	
収受システム改修費	300 百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	100 百万円	
備考	※2026年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了後に必要となる収受システム改修費及びその他費用について、本様式には計上していない。	

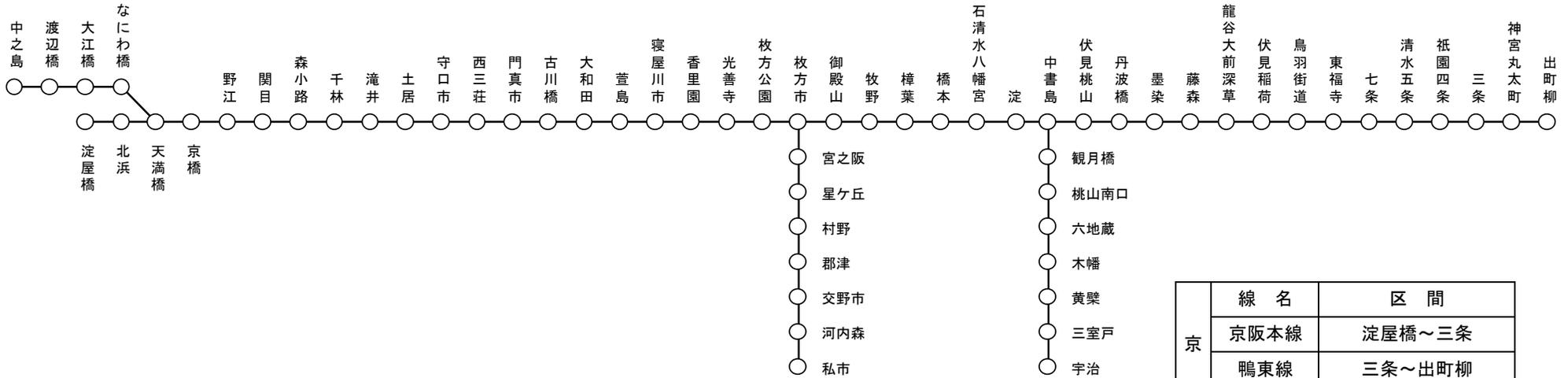
※ 整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※ 整備費：計画期間内に整備する設備の費用

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	5,995 百万円
-----------------------	-----------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	8 番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

《京阪線全線》



	線名	区間
京阪線	京阪本線	淀屋橋～三条
	鴨東線	三条～出町柳
	中之島線	天満橋～中之島
	交野線	枚方市～私市
	宇治線	中書島～宇治